

令和 5 年 6 月 20 日現在

機関番号：32309

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K10518

研究課題名（和文）発達障害者等の継続支援における市町村保健師の機能に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Functions of the Municipal Public Health Nurse in Continuing Support for People with Developmental Disabilities

研究代表者

矢島 正栄 (Yajima, Masae)

群馬パーズ大学・看護学部・教授

研究者番号：40310247

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,100,000円

研究成果の概要（和文）：全国の市区町村における発達障害者等の支援体制と保健師の関わりの実態を調査し、人口規模別による差異を比較した。学齢期以降の保健師の関与の減少が明らかになり、地域特性に応じた継続支援体制構築の必要性が示唆された。また、幼児期から学齢期の発達障害児の支援経験のある教員等を対象に面接調査を行った。市区町村保健師の機能として早期スクリーニングと発達支援事業の利用支援、子育て支援としての発達支援、保護者・家族支援、継続支援の質保障、発達支援体制の構築、発達障害に対する理解の促進が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

市区町村保健師は、母子保健活動を通じた発達障害児等の早期発見・早期支援に始まり、発達の過程を通して様々な関係機関をつなぎ、地域生活の身近な支援者として生涯に渡る支援の要となり得る立場にある。本研究で明らかになった、市区町村における保健師の発達障害者（児）等の支援への関与の実態と期待される機能は、今後の各自治体における地域特性に応じた発達障害者（児）等支援体制の構築のための資料となることが期待できる。

研究成果の概要（英文）：We conducted a survey on the support system for people with developmental disabilities, and the actual situation of support for people with developmental disabilities by public health nurses in municipalities. Then, we compared the differences by population size. As a result, after school age, the involvement of public health nurse decreased. Also, the necessity of constructing a continuous support system according to regional characteristics was suggested. In addition, we conducted an interview survey to the teachers who had experienced support to children with a developmental disability from the infancy to the school child period. As the functions of the municipal public health nurse, early screening, encouraging the use of developmental support, developmental support as child-rearing support, supporting parents and families, ensuring the quality of ongoing support, building a developmental support system, and promoting understanding of developmental disorders were found.

研究分野：公衆衛生看護学

キーワード：発達障害 保健師

1. 研究開始当初の背景

発達障害は通常低年齢において発現する脳機能の障害で、平成 24 年度文部科学省実態調査による「学習面や行動面で著しい困難を示す」通常学級在籍児童生徒の割合では 6.5%と報告されており、頻度の高い障害である。乳幼児期から感覚、行動の異常が発現するが、個々の障害特性、生活環境、成長に伴って直面する発達課題等との関係により、適応困難が著明になってくる時期は様々であり、生涯に渡って周囲の理解と支援を必要とする。特に、就学、進学、就職等により、障害者を取り巻く社会環境や周囲から期待される課題が変化することを契機に、適応困難に陥りやすい。このような変化のときに、1人1人の障害者の障害特性を踏まえた環境づくりや関わり方の智恵が支援者間で適切に伝達され、共有されることにより、新たな生活への適応困難による二次障害を予防し、良好な発達と社会参加が保障されることが考えられる。

発達障害者（児）および発達障害が疑われる者（以下、「発達障害者（児）等」という。）の支援は多くの場合、地域における乳幼児健診等での発見に始まり、早期には養育者の子育て支援や障害の受容の支援などが身近な市町村保健師を中心に行われ、心理職による発達障害に関する判定や児童精神科医による診断、集団保育への参加、発達支援の利用等を進めていく中で支援者・支援機関の拡大が図られる。その後、就学に伴い、支援の主体は母子保健・児童福祉から学校を中心とする教育支援に移行する。青年期、成人期については、発達障害者支援センターや地域障害者職業センターでの就労相談・支援が行われているが、地域生活等における困難に対する支援体制は整っていないことが推測される。更に、これらの支援はライフステージ毎に支援の主体が替わっていくため、支援者間での情報が伝わりにくく、支援が容易に途切れている。

対人関係の苦手さを持つ発達障害者（児）等とその家族が生活の変化等により支援を必要とするときに、自らの力で適切な専門支援機関を選択し、支援者を確保し、適切な支援内容を要望していくことには困難が伴う。市区町村保健師は、発達障害が発現する乳幼児期に発達障害児等とその養育者に関わり、その後も地域住民としての障害者等の生涯の健康に責任を負う立場にある。このことから、市区町村に個別の発達障害者（児）等支援の情報が蓄積され、保健師が発達障害者（児）等本人や養育者の身近な相談窓口として機能することで、発達障害者（児）等が生涯に渡り、必要な局面でスムーズに専門支援に繋がることを助けることができると考えられる。また、二次障害の予防や健康な生活行動の保持のために、乳幼児期以降にも保健師が身近に関わることが有効であると考えられる。

2. 研究の目的

(1) 発達障害者（児）等の社会環境に変化が生じる就園・保育所入所、就学、進学、就職、出産・育児等の局面を中心に、市区町村における支援体制と保健師による関わりの実態を明らかにし、人口規模、支援機関の設置状況等の地域特性による差異を比較する。

(2) 社会環境の変化の局面で発達障害者（児）等が直面する課題と解決において市区町村保健師が果たし得る役割を抽出・構造化し、継続支援の観点から市区町村保健師に求められる機能を明確化する。

3. 研究の方法

(1) 発達障害者（児）等に対する市区町村保健師の継続支援の実態と地域特性による比較

全国の市区町村 1,741 か所の保健師全体の調整や指導を行う保健師または発達障害者（児）等に対する保健師活動全体の調整や指導を行う保健師各 1 名を対象に、郵送調査を実施した。調査内容は発達障

害者（児）等の支援部署および保健師配置の有無、部署を横断する支援体制、外部機関との連携体制、発達障害者（児）のサービス等利用状況、発達障害者（児）を対象とする保健活動、発達障害者（児）等支援における困難等とした。分析方法は記述統計量の算出および人口規模別によるクロス集計を行った。人口規模別比較にはカイ二乗検定を用い、有意差が認められた項目について残渣分析を行った。

(2) 社会環境の変化に直面した発達障害者（児）等の支援課題と市区町村保健師の役割の抽出・構造化

①保育所、幼稚園または認定こども園5施設（以下、「保育所等」という。）において発達障害児等の保育に5年以上携る保育士・幼稚園教諭12名、および②小学校・中学校就学前後の発達障害児等の教育・支援に従事した経験のある教員、スクールカウンセラーおよび特別支援教育専門アドバイザー9名を対象とし、半構造化面接を実施した。調査内容は発達障害児等の支援事例に基づく支援の現状、市区町村保健師やその他の機関との連携、市区町村保健師への役割期待とした。分析方法は逐語録から発達障害児等の支援課題、市区町村保健師との連携の実際及び役割期待に関する文脈を抽出し、それぞれ内容の類似性に従って分類・整理した。

4. 研究成果

(1) 発達障害者（児）等に対する市区町村保健師の継続支援の実態と地域特性による比較

有効回答数は619件（有効回答率35.6%）、人口規模別内訳は1万人未満189件（30.5%）、1万人以上5万人未満247件（39.9%）、5万人以上20万人未満136件（22.0%）、20万人以上47件（7.6%）であった。

発達障害者（児）等の支援部署（複数回答）は、乳幼児期では母子保健担当部署94.2%、児童福祉または障害者福祉担当部署78.4%の順に多かった。学齢期では学校又は教育委員会83.8%、児童福祉または障害者福祉担当部署75.8%の順に多く、母子保健担当部署は42.6%であった。青年期以降では障害者福祉担当部署が87.6%で最も多く、次いで成人保健担当部署の48.0%であった。発達支援専門部署が支援を担っているのは、乳幼児期で28.4%、学齢期で19.9%、青年期以降では8.1%であった。人口規模別では、子ども・子育て支援担当部署、発達支援専門部署、基幹相談支援センターにおいて有意差が認められ、乳幼児期、学齢期、青年期以降ともに5万人以上20万人未満および20万人以上で発達支援専門部署が支援を担当している割合が多かった。また、学齢期、青年期以降では5万人以上20万人未満および20万人以上で基幹相談支援センターが支援を担当している割合が多く、1万人未満では学齢期においては母子保健担当部署、青年期以降においては成人保健担当部署が支援を担当する割合が多かった。担当部署の1つ以上に保健師が配置されている市区町村の割合は、乳幼児期では97.7%、学齢期では70.0%、青年期・成人期では72.1%であった。

自治体内で、発達障害者（児）等の支援のために2部署以上を横断する仕組みが「全年齢を対象としてつくられている」ところは18.8%、「乳幼児期など特定の時期を対象につくられている」ところは44.9%、「つくられていない」ところは36.4%であった。また、人口規模による有意差が認められ、5万人以上20万人未満で「つくられていない」割合が少なく、1万人未満で「特定の時期を対象とする仕組みがつくられている」割合が少なかった。

発達障害者（児）等の支援のために外部機関との恒常的な連携の仕組みが「全年齢を対象としてつくられている」ところは24.2%、「特定の時期を対象につくられている」ところは37.7%、「つくられていない」ところは38.1%であり、人口規模による差は認められなかった。

地域における発達障害者（児）等の発達支援機関・サービスの利用状況を「利用できている」、「どち

らかとえば利用できる」、「どちらかとえば利用できていない」、「利用できていない」の4件法で尋ねたところ、「利用できる」・「どちらかとえば利用できる」を合わせた割合は小児科医療機関が66.8%、精神科医療機関が38.3%、児童相談所が49.7%、発達障害者支援センターが42.0%、機関相談支援センターが49.3%、障害者就業・生活支援センター56.3%、児童発達支援78.5%、放課後等デイサービス80.8%であった。人口規模による有意差が精神科医療機関、発達障害者支援センター、基幹相談支援センター、障害者就業・生活支援センター、児童発達支援、放課後等デイサービスで認められた。精神科医療機関、基幹相談支援センター、障害者就業・生活支援センター、児童発達支援、放課後等デイサービスはいずれも1万人未満で「利用できる」・「どちらかとえば利用できる」を合わせた割合が少なかった。基幹相談支援センター、障害者就業・生活支援センターは5万人以上20万人未満および20万人以上で「利用できる」・「どちらかとえば利用できる」を合わせた割合が多く、児童発達支援は1万人以上5万人未満、放課後等デイサービスは1万人以上5万人未満と5万人以上20万人未満で「利用できる」・「どちらかとえば利用できる」を合わせた割合が多かった。

保健師による個別支援の体制について、「支援ニーズを把握する仕組みを活用して対応している」、「当事者・関係者から相談があった場合に対応している」、「殆ど対応していない」のいずれかで回答を求めたところ、支援ニーズを把握する仕組みを活用して対応しているのは、「保育所入所、幼稚園・認定こども園入園」で30.6%、「保育所・幼稚園・認定こども園の継続利用」で27.1%、「小学校または特別支援学校入学」で28.5%、「小学校または特別支援学校就学期間」で9.5%、「中学校・高等学校等入学」で5.4%、「中学校・高等学校等就学期間」で4.1%、「妊娠・出産・子育て」で75.3%、「就職」で0.7%、「就労継続」で0.8%、「地域生活」で3.3%であり、「妊娠・出産・子育て」、「就職」、「地域生活」を除く各項目で人口規模による有意差が認められた。このうち、「小学校または特別支援学校入学」においては1万人以上5万人未満が「支援ニーズを把握する仕組みを活用して対応している」割合が多く、その他の項目はいずれも1万人未満が「支援ニーズを把握する仕組みを活用して対応している」割合が多かった。

発達障害者（児）等の支援における困難の有無を尋ねたところ、「発達障害者（児）等を紹介する専門機関の確保」で困難ありと答えた割合が77.4%と最も多く、以下、「保健活動への協力や助言を受けられる発達支援専門家の確保」64.1%、「保健師の支援技術の向上」64.0%の順であった。人口規模による有意差は「保健活動への協力や助言を受けられる発達支援専門家の確保」においてのみ認められ、5万人以上20万人未満で少なかった。

学齢期から成人期にかけて保健師の関与の機会が減少しており、乳幼児期の支援情報や支援関係が継続し難い状況が示唆された。地域における発達障害者（児）等の発達支援機関・サービスの利用は規模の大きい自治体で利用しやすい傾向が見られた一方、保健師による個別支援は人口規模の小さい自治体の方がニーズ把握の仕組みが活用されている状況が認められ、地域特性に応じた継続支援の体制を整えていく必要性が示唆された。

(2) 社会環境の変化に直面した発達障害者（児）等の課題解決のプロセスと市区町村保健師が果たし得る役割の抽出・構造化

保育所等への入所・入園および通所・就園に伴う発達障害児等の支援課題は190記録単位が抽出され、15サブカテゴリー、5カテゴリーに整理された。カテゴリー名は「子どもの特性を把握する」、「保育士間で子どもの特性を共有する」、「子どもの特性に応じて保育する」、「保護者を支援する」、「就学に向け

て準備する」と命名された。市町村保健師との連携は、調査対象とした5施設とも保護者を通して健康診査の様子等について情報収集するに留まっていた。また、調査対象とした5施設とも保育における課題解決のために独自の経路で助言を求める専門機関を確保していた。

保育所等は子どもの特性の理解、保育方法、保護者支援、就学準備のための専門的助言を必要としているが、支援機関の確保等を独自の努力で行っており、施設の力量による差が推測された。市町村保健師は地域全体を支援する立場から、保育・幼児教育施設における発達障害児等の保育の課題を把握し、支援システムを構築していく必要が示唆された。

小学校・中学校就学中および前後の支援課題は167記録単位が抽出され、39サブカテゴリー、7カテゴリーに整理された。カテゴリー名は「適切な就学先の選択」、「入学・進級・進学に伴う環境変化に対する準備」、「学校生活での困難の把握と対応」、「適応を促す環境の調整」、「保護者支援」、「関係機関・関係者の連携」、「支援体制の強化」と命名された。

同じく、小学校・中学校就学中および前後の保健師への役割期待は67記録単位が抽出され、28サブカテゴリー、8カテゴリーに整理された。カテゴリー名は「妊娠期からの総合的な情報管理」、「早期支援への橋渡し」、「支援の継続の担保」、「保護者・家族への支援」、「関係機関の連携の調整」、「地域支援体制の構築」、「子育て支援としての発達支援」、「発達障害に対する地域の理解の促進」と命名された。

市区町村保健師の機能として、母子保健事業における早期のスクリーニングと適切な発達支援事業の利用支援、子育て支援としての発達支援、妊娠期からの保護者との信頼関係を基盤とする保護者に寄り添う関わりと家族支援、学齢期およびそれ以降の継続支援の質保障、乳幼児期から学齢期を通しての地域における発達支援体制の構築、地域における発達障害に対する理解の促進が明らかになった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 矢島正榮、奥野みどり、小林亜由美、廣田幸子、桐生育恵
2. 発表標題 特別支援教育従事者からみた発達障害児および発達障害が疑われる児の小学校就学に伴う支援課題と市町村保健師の役割への期待
3. 学会等名 第10回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 矢島正榮、奥野みどり、廣田幸子、小林亜由美、桐生育恵
2. 発表標題 保育所、認定こども園における発達障害児等の保育の現状と連携の課題
3. 学会等名 日本地域看護学会第23回学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢島正榮、奥野みどり、廣田幸子、小林亜由美、桐生育恵
2. 発表標題 発達障害者（児）等に対する市区町村保健師の継続支援の実態
3. 学会等名 第11回日本公衆衛生看護学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------